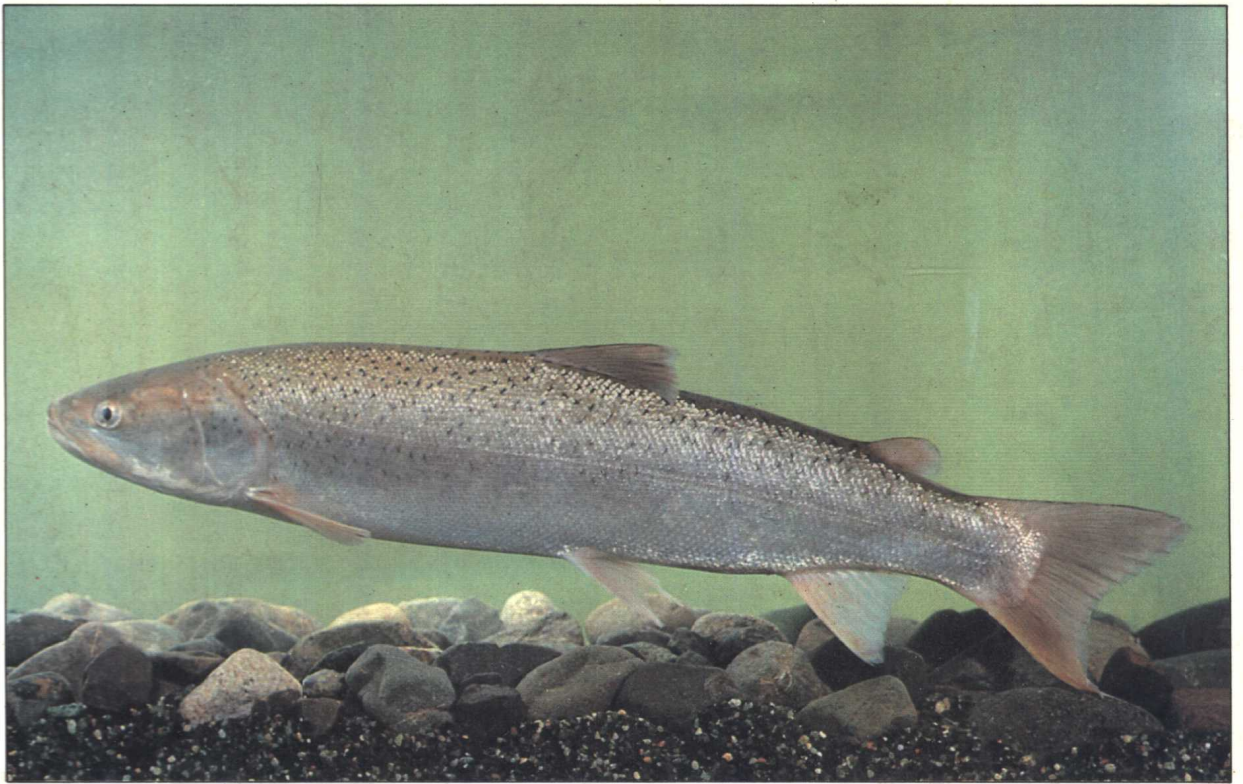


第2回自然環境保全基礎調査(緑の国勢調査)
動物分布調査(淡水魚類)報告書

日本の重要な淡水魚類

北海道版



環境庁 編

第2回自然環境保全基礎調査

動物分布調査要綱

(淡水魚類)



1 9 7 8

環境庁自然保護局

あ と が き

この調査は、3,000メートル以上の高山帯から遠隔の離島にまで、全国土にわたり生息する淡水魚類のうち主として絶滅のおそれのある、又は学術上重要と思われる種及び亜種を対象として、1カ年という短期間でなされたものである。この調査では、環境庁で指定した27種の淡水魚類を対象としたが、それ以外でも都道府県において重要と思われる種類を適宜追加することができるようになっており、その県指定種は全体で44種である。また、調査方法は、文献による情報収集が主体となっており、昭和53年度の調査時点での現地確認は、可能な範囲でしか行われていない。

この調査報告書を利用されるに当たっては、上記の事情に留意されるとともに、自明のことではあるが、調査データがなかった地域及び種についての生息状況は記載されていないので、「生息地として掲載されていない地域には、当該種が生息しない。」とは必ずしもいえないことに留意されたい。

困難な調査に参画頂いた調査員各位の御努力に感謝申し上げるとともに、不備な点については、今後、改善に努力していきたい。

この調査報告書及び自然環境保全基礎調査についての問合せ先

環境庁自然保護局企画調整課自然環境調査室

住所 〒100 東京都千代田区霞が関3-1-1

電話 03-581-3351 (内線 2482)

動物分布調査（淡水魚類）

目 次

	頁
動物分布調査（淡水魚類）要綱.....	1
別紙 1 淡水魚類分布図.....	2
別紙 2 淡水魚類調査票.....	6
別紙 3 報告書作成要領（省略）	
別紙 4 淡水魚類分布図帳作成要領（省略）	

表 目 次

表 1 調査対象淡水魚類種名表.....	3
----------------------	---

動物分布調査（淡水魚類）要綱

1. 調査の目的

わが国の淡水域に生息する魚類の生息状況を把握するため、絶滅のおそれのある種、学術上重要な種等の生息地、分布について調査する。

2. 調査実施者

国が都道府県に委託して実施する。

3. 調査対象地域

全国47都道府県全域について調査する。

4. 調査実施期間

契約締結の日から昭和54年3月31日までとする。

5. 調査内容

(1) 調査の対象とする淡水魚類は、表1「調査対象淡水魚類種名表」に掲げたものとする。それ以外でも都道府県において重要と思われる種類があれば適宜追加してさしつかえない。

(2) 調査項目は次のとおりとする。

ア 生息地（流域）の位置

イ 生息環境の概要

ウ 保護の現状

6. 調査方法

主として概存資料その他の知見の収集等により調査を実施する。

7. 調査結果のとりまとめ

受託者は、調査結果を下記の図票にとりまとめる。

(1) 淡水魚類分布図

淡水魚類の分布は、別紙1「淡水魚類分布図」(以下「分布図」という。)になら
い、国土地理院発行の20万分の1地勢図に表示する。

(2) 淡水魚類調査票

調査した事項は、別紙2「淡水魚類調査票」(以下「調査票」という。)にとりま
とめる。

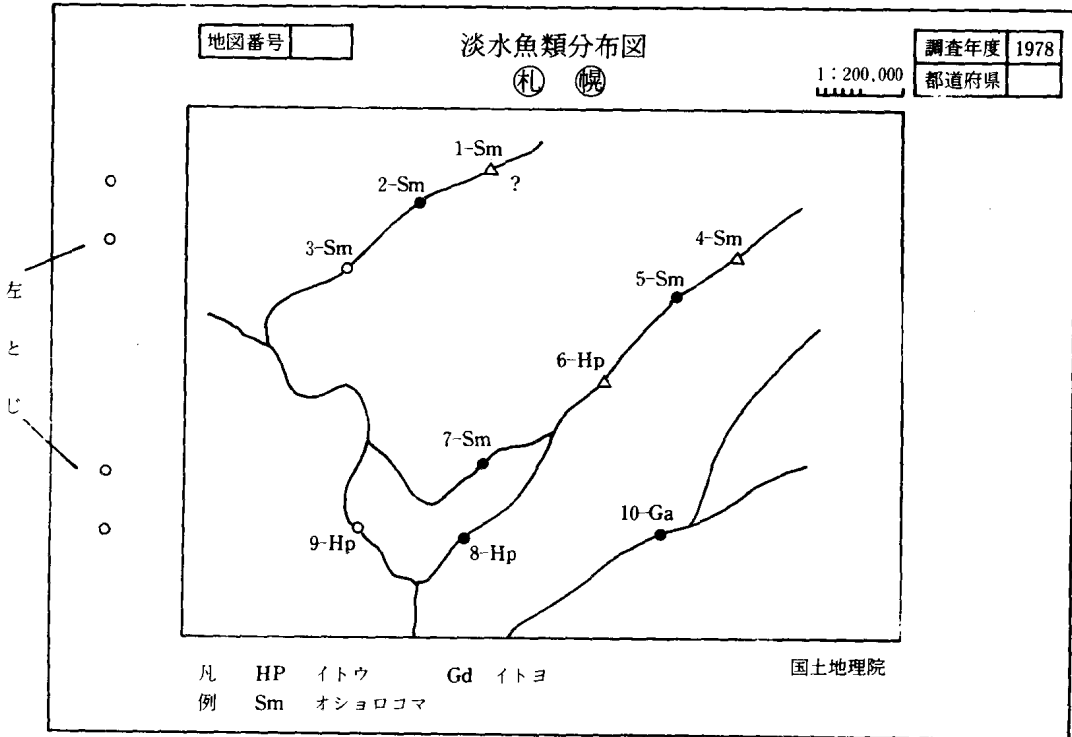
8. 調査結果の報告

受託者は調査結果をとりまとめ、報告書、報告書付属資料及び分布図帳をそれぞ
れ別紙3「報告書作成要領」別紙4「淡水魚類分布図帳作成要領」により作成し、
昭和54年3月31日までに、環境庁自然保護局長あて提出する。

<別紙1>

淡 水 魚 類 分 布 図

分布図例



(分布図作成上の注意)

1. 分布図には、必ず国土地理院発行の20万分の1地勢図を使用する。複写図、編さん図等は使用しないこと。
2. 20万分の1地勢図には、都道府県単位で、東側から北から南へ「地図番号」を打

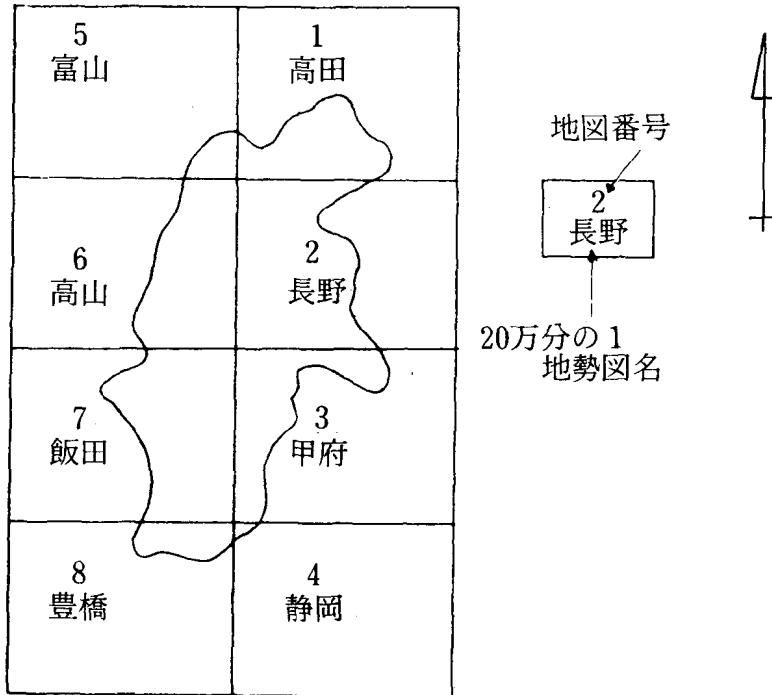
〈表1〉 調査対象淡水魚類種名表

コード 番号	魚 種 名	学 名	種略号
1	イ ト ウ	<i>Hucho perryi</i>	Hp
2	オ シ ョ ロ コ マ	<i>Salvelinus malma</i>	Sm
3	ゴ キ	<i>Salvelinus imbrius</i>	Si
4	イシカリワカサギ	<i>Hypomesus olidus</i>	Ho
5	アリアケヒメシラウオ	<i>Neosalanx regani</i>	Nr
6	アリアケシラウオ	<i>Salanx ariakensis</i>	Sa
7	ウケクチウグイ	<i>Tribolodon sp</i>	Tsp
8	ヒ ナ モ ロ コ	<i>Aphyocypris chinensis</i>	Ac
9	イ タ セ ン パ ラ	<i>Acheilognathus longipinnis</i>	Al
10	ニッポンバラタナゴ	<i>Rhodeus ocellatus smithi</i>	Ros
11	カゼトゲタナゴ	<i>Rhodeus atremius</i>	Ra
12	スイゲンゼニタナゴ	<i>Rhodeus suigensis</i>	Rs
13	ミヤコタナゴ	<i>Tanakia tanago</i>	Tt
14	ゼニタナゴ	<i>Pseudoperilampus typus</i>	Pt
15	イシドジョウ	<i>Cobitis takatsuensis</i>	Ct
16	アユモドキ	<i>Leptobotia curta</i>	Lc
17	ネコギギ	<i>Coreobagrus ichikawai</i>	Ci
18	イトヨ (陸封型) (降海型)	<i>Gasterosteus aculeatus aculeatus</i>	Ga
19	ハリヨ	<i>Gasterosteus aculeatus microcephalus</i>	Gm
20	トミヨ	<i>Pungitius sinensis</i>	Ps
21	ムサシトミヨ	<i>Pungitius sp</i>	Psp
22	イバラトミヨ	<i>Pungitius pungitius</i>	Pp
23	エゾトミヨ	<i>Pungitius tymensis</i>	Pt
24	オヤニラミ	<i>Coreoperca kawamebari</i>	Ck
25	ヤマノカミ	<i>Trachidermus fasciatus</i>	Tf
26	カマキリ	<i>Cottus kazika</i>	Ckz
27	タナゴモドキ	<i>Hypseleotris bipartita</i>	Hb

(注) イトヨは陸封型と降海型のものを区別すること。

つ。(下図(以下「地図番号図」という。)参照)

地図番号図(例:長野県)



3. 調査の結果、淡水魚類の分布が表示されていない地勢図が出てきても、当該都道府県にかかわりのある地勢図はすべて提出することとし、4の作業はすべての地勢図について行う。
4. 分布図例のように地勢図の余白の所定の位置に「タイトル」「地図番号」「調査年度(西暦)」「都道府県名」を黒インクで記入する。
5. 文献、聞き取り、その他の資料等により、調査対象魚種の生息地点等を地勢図上に示すとともに、それぞれの地点ごとに調査票と対照できるように対照番号を記入する。

補獲地点や生息地点の位置を次の記号(記号の大きさは2mm程度)で示し、その脇に当該淡水魚類の種略号(表1)を記す。

(例 2-Sm……対照番号2番の地点でオシヨロコマの生息を現物で確認していることを示す。)

記号	内 容
●	調査者が当該種の現物を確認しているもの
○	文献に生息に関する記載があるもの
△	そこに生息するという話を聞いたもの
?	生息しないのではないかと調査者が考えるもの

なお、県独自で調査対象とした淡水魚類については、学名の属名と種名の頭文字の組みあわせで適宜略号を作成する。

また、文献、聞き込み等で生息するという情報があった場合でも現時点においてそこには生息しないと調査者が考える場合には「？」記号を付す。

6. 対照番号は、地勢図ごとに通し番号とする。
7. 調査票の「取扱」欄が㊟の場合であっても、一応、当該淡水魚類の生息地を分布図に表示する。
8. 地勢図の下方の余白には、分布図例のようにそれぞれの地勢図ごとに当該分布図の凡例を必ず記入する。

凡例は種略号——種名の順に記入する。

<別紙2>

淡 水 魚 類 調 査 票

(調査票様式)

取 扱	淡 水 魚 類 調 査 票				調査年度	1978						
					都道府県							
種 略 号	種 名	方 言		調 査 者								
				所属 氏名								
水域名(河川・湖沼)		地図番号	1/2万地勢図	保 護 の 現 状								
				天 然 記 念 物								
				国	県	町						
				種	地 域							
○ 生 息 環 境 (水 域) の 概 要				当 該 水 域 に お け る 問 題 点	水 質 汚 濁							
					グ ム ・ 堰							
					河 川 改 修							
					土 砂 堆 積							
					農 業 流 入							
					外 来 種 等 放 流							
					捕 獲							
	そ の 他											
地図 番号	対照 番号	所 在 市 町 村		標高 (m)	資 料 の 種 類			確 認 年 月 日			出 典	備 考
		市	町		現 認	文 献	聞 込	年	月	日		

(調査票記入上の注意)

1. 調査票の様式は前頁に掲げるものとし、用紙は110kg程度B5版左側2つ穴あきとする。
2. 調査票は1水域の1淡水魚類ごとに作成する。
3. 「調査年度(西暦)」、「都道府県」には、該当のものを記入する。
4. 「取扱」には、公表することにより乱獲のおそれがある等、その淡水魚類の生息場所の公表が不都合な場合、赤字で㊦と記入する。
5. 「種略号」「種名」には、表1「調査対象淡水魚類種名表」により、該当のものを記入する。
6. 「方言」には、当該種について、その地方での標準和名以外の呼び名があれば、それを記入する。
7. 「調査者」には、当該調査票作成者の所属、氏名を記入する。
8. 「水域名(河川、湖沼)」には、調査対象となる淡水魚類の生息する水域の名称を河川名あるいは湖沼名で記入する。
9. 「地図番号」「20万分の1地勢図」には、当該水域が主にどの地勢図にあたるか該当のものを記入する。
10. 「保護の現状」には、天然記念物以外に当該種、当該生息地に関して現在とられている保護対策について具体的に記入する。
11. 「天然記念物」には、当該種、当該生息地が天然記念物に指定されている場合に、次のいずれかを○で囲む。
 - 国……………国指定の天然記念物
 - 県……………都道府県指定の天然記念物
 - 町……………市町村指定の天然記念物
 - 種……………地域を定めず種が指定されているもの
 - 地域……………地域を定めて指定されているもの
12. 「生息環境(水域)の概要」には、当該水域の環境の現状を記入する。また、「当該水域における問題点」には、当該水域における淡水魚類の生息にとって問題が発生している場合には該当する欄に○を付す。
13. 当該種の生息に関するデータについては、生息地点ごとに以下のとおりに処理する。
14. 「地図番号」「対照番号」には、分布図と対照できるようにそれぞれ該当するもの

を記入する。

15. 「所在市町村」には、当該種の生息地点の市郡、町村名を記入する。

16. 「標高」には、生息地点のおおよその標高を地勢図から読みとって記入する。

17. 「資料の種類」には、当該種がその地点において生息するという情報がどのような資料によって得られたかを次の中から選び該当する欄に○を付す。

現 認 …… 調査者が当該種の現物を確認しているもの

文 献 …… 文献に生息に関する記載があるもの

聞 込 …… そこに生息するという話を聞いたもの

18. 「確認年月日」には、当該種の生息が確認された年月日を記入する。年には西暦を使用する。詳細な確認年月日が不明の場合は、その部分は記入しなくてよい。

(1) 当該種を捕獲等で確認した場合は、捕獲年月日を記入する。

(2) 文献からの情報の場合は、文献に記載されている捕獲年月日を記入する。

(3) 聞き込みによる情報の場合は、聞きとった相手が当該種を確認した年月日を記入する。

19. 「出典」には、当該種がその地点に生息するという情報の出典を記入する。

(1) 調査者が当該種の現物を確認している場合は、当人の氏名を記入する。

(2) 文献によった場合は、文献番号(後述)、筆署名、発行年(西暦)を記入する。

(3) 聞き込みによった場合は、その相手方の氏名を記入する。

20. 「備考」には、文献や聞き込み等で生息するという情報があった場合でも、現時点においてそこには生息しないと調査者が考える場合には、その理由を次の記号で記入する。

記 号	理 由
絶	かつては生息したが、今は絶滅して生息していないと判断される。
誤	文献や聞き込みの相手が種を誤って判断していると思われる。

21. 生息を示すデータが多くて調査票のおもてに記入できない場合は、票の裏面に記入する。